

みやぎ母乳育児をすすめる会

ニュース No.52



2020. 5

目 次

巻頭言「LIVE SIMPLY」

みやぎ母乳育児をすすめる会 理事 安井 友春 …… 1

■ 第7回 みやぎ版母乳育児ワークショップ

第7回みやぎ版母乳育児ワークショップ開催報告

東北公済病院 佐藤 梅子 …… 2
(事務局)

第7回みやぎ版母乳育児ワークショップに参加して

坂総合病院 沼津 亜紀 …… 3

第7回みやぎ版母乳育児ワークショップに参加して

坂総合病院 近江 暁子 …… 4
(チューター)

各グループ発表内容 …… 5

第7回みやぎ版母乳育児ワークショップ全体討論報告 ……14

第7回みやぎ版母乳育児ワークショップ アンケート結果 ……15

■のびすく便り みやぎ母乳育児をすすめる会 副理事長 佐藤 祥子 ……17

■NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会

2019年度 第4・5回理事会報告 ……20

■お知らせ ……24

巻頭言

「L I V E S I M P L Y」

みやぎ母乳育児をすすめる会 理事 安井 友春

(名取市 春ウイメンズクリニック 院長)

2011年9月にスタートした当院は、2016年8月に「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」の認定を受けました。そこから早いもので3年半が過ぎ、初回の再評価の時期となりました。再評価に向けてデータや考察を作成した頃には海の向こうのこと（のよう）だった新型コロナウイルス感染症。当初の報道では人から人へは感染しないとか言っていたような。日本産科婦人科学会（以下日産婦）からの新型コロナウイルス感染に関する2月8日付の最初のメールには、「新型コロナウイルスはヒトからヒトへの感染の程度は明らかでない」と。中国人ツアー客から日本人のバス運転手とガイドへの感染が判明した後であるにも関わらず、です。

ご存知のように宮城県での患者第一号はクルーズ船経由で2月29日、その後はほぼ一ヶ月にわたり新規の感染者は確認されませんでした。多くの総合病院や一部のクリニックで面会謝絶、立ち会い出産中止となった後も、当院では立ち会いを継続していました。しかしながら3月26日に七ヶ浜で二人目の患者が確認され、遅ればせながら全教室を中止し帰省分娩患者の2週間自宅待機を開始。4月3日にはついに名取市内でも患者が確認。その後も同居家族1名の立ち会いと立ち会い者の面会は可としていましたが、同居の定義とか近くの実家に滞在している時は誰が立ち会いできるのかとか結構揉めました。なんとか立ち会い中止を回避しようと右往左往する毎日で、まさに朝令暮改の繰り返し。4月7日付で日産婦を含む3学会から「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応（第三版）」のお知らせがあり、第一版と第二版には記載されていなかった面会制限に関する言及と、「妊婦さんご本人と医療スタッフの感染リスクを避けるため、帰省分娩と分娩付き添いは推奨しません」の文言が！ここに至って当院も面会と分娩立ち会いを中止、受診も原則お一人で、分娩後も退院まで家族と全く会えないという異常事態（今的には普通の状態）になりました。退院した褥婦さんを来院させることも感染リスクにつながるため、従前のような退院後のケアも不可能となりつつあります。陣発入院した後にコロナ感染兆候が判明した場合にどう対処するのかをシミュレーションしてみても、そもそも入り口一つのクリニックでできることは限定されます。自分が濃厚接触者になっても就業制限がかからぬようにゴーグルを購入しましたが、目を覆うだけなのになぜか息苦しくなりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、私も毎年出走していた恒例の仙台ハーフマラソンも中止になりましたが、自粛生活を始めてからはほとんどどこにも出かけないので結果的には例年以上にランニングできています。家族は院長室のテーブルにネットを張って卓球をしています。ランニングに誘っても断られますが。

皆様も感染対策でさぞお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。どうかくれぐれもお疲れが出ませんよう、お身体をお勞りください。

末筆ながら新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束と、皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

第7回 みやぎ版母乳育児ワークショップ開催報告

東北公済病院 佐藤 梅子（事務局）

【日 時】2020年2月16日(日) 10:00～16:00

【場 所】東北公済病院 8階大会議室

【参加者】15名（参加者10名、係等5名）

【テーマ】① 35週3日で生まれて、母子同室できませんでした。

② 乳頭が大きくて赤ちゃんが飲めません。

③ 4日目になりましたが、まだおっぱいが出ませんが、ミルクは足したくありません。

④ おっぱいが張って痛いです。飲ませても軽くなりません。

⑤（母乳のみで順調な経過ですが）私は、退院後はミルクも飲ませたいです。

【内 容】

1. 希望されたテーマで3グループに分けてプログラムに沿って開催された。

テーマ2G「乳頭が大きくて赤ちゃんが飲めません」

テーマ3G「4日目になり、まだおっぱいが出ませんが、ミルクは足したくありません」

テーマ5G「（母乳のみで順調な経過ですが）私は、退院後はミルクも飲ませたいです。」

2. グループ数が少ないので、発表時間が短縮し30分ほど早く終了した。

3. アンケート（別紙）より、時間配分に関して、グループワークが「もう少し短くても良かった」「短く感じた」と相反する意見があった。他、基調講演、グループワーク共に、役に立った、良かった、という意見がほとんどであった。

4. 全体討論内容（別紙）

第7回ワークショップを2月16日に開催いたしました。参加者10名、係5名で少人数ではありましたが、3グループがそれぞれのテーマで話し合う事が出来ました。最後の総合討論で更に学びを深められたと思います。アンケートからも成果が伺えました。

基調講演、各グループの発表内容（パワーポイント）、総合討論の内容、アンケートを掲載いたしますのでご覧ください。

第7回 みやぎ版母乳育児ワークショップに参加して

坂総合病院 助産師 沼津 亜紀

今回、母乳育児ワークショップに参加し、みやぎ母乳育児をすすめる会理事長の上原茂樹先生から「育児支援とは心の支援」の講義をしていただき、母乳育児を続けるためにはマニュアルに載っていない「お母さんの心身状態や赤ちゃんの身体状態を評価し臨機応変に行う支援（ソフトサポート）」が必要不可欠である事を学びました。

グループワークでは、下記のテーマについて各グループで話し合いました。

- ①「(母乳のみで順調な経過ですが) 私は、退院後はミルクも飲ませたいです」
- ②「乳頭が大きくて赤ちゃんが飲めません」
- ③「4日目になり、まだおっぱいが出ませんがミルクは足したくありません」

私たちのグループでは③について討議をしました。どこの施設でも「おっぱいが出るなら母乳で頑張りたい」という声や「母乳育児は辛いけど頑張ります」と言うお母さんが多いようでした。お母さん自身の生い立ちやモチベーション、知識や乳頭形態など母乳育児に影響する要因はさまざまです。ネット社会といわれる現在、間違った情報も多くお母さんの不安を助長しないよう妊娠中からのハードサポートも大切になります。母乳が出るかどうかは、お母さんの体質ではなく、母子それぞれのやり方を最適化できるかどうかであり、私たちが常に臨床で支援しているのは個別性である事を改めて実感しました。

母乳育児は十人十色であり、母乳育児を継続するためには、お母さんが自分自身の母乳に自信を持つ事が大切だと思います。ソフトサポートを基盤に医療従事者が授乳に関する基礎的事項を共有し、支援内容が異ならないよう一貫性のある支援を今後も続けていきたいと思っています。そして女性の自立を促すために、自分自身が自律した助産師になるべく広い視野と心を養っていきたいです。

第7回 みやぎ版母乳育児ワークショップに参加して

坂総合病院 近江 暁子 (チューター)

2月16日、第7回みやぎ版母乳育児ワークショップにチューターとして参加させていただきました。

冒頭、上原代表理事による基調講演「育児支援は心の支援」を拝聴しました。高齢出産、就業率の上昇、育児支援者不足による育児困難、情報が交錯するネット社会など育児環境が変わってきている昨今“いまどきのお母さん”にとって必要な支援とは何か、今後の母乳育児支援にとって必要なたくさんの学びを得ることができました。母乳育児支援に携わる中、施設として母乳率と支援方法に悩むことがあります。しかし、育児環境が変わってきたことで母乳育児が困難になりつつある今、完全母乳でなければいけないのか？なぜ混合ではいけないのか？完全母乳でなければ無効なもの？という先生の言葉は、多様化する育児環境と母子をサポートしていく上で、支援者自身も柔軟な支援ができるよう変わらなければならないと考えさせられました。そして同時に、参考書にはない心の支援「ソフトサポート」が今後は支援にとっても重要だと学ぶことが出来ました。

グループ討議では今年の参加者は例年と比べ少人数でしたが、それぞれが発言する機会が増えたことで各テーマ有意義な討論ができたと思います。

私は「乳頭が大きくて赤ちゃんが飲めません」というテーマについて、チューターとして参加しました。色々な施設のスタッフが討議することで、より統一した見解が持てたと思います。その中で、この「乳頭が大きくて赤ちゃんが飲めない」状況は、実際には根気よく吸着の練習を続けることが重要で、長期支援になる可能性があります。分娩施設では継続支援に限界があること、施設スタッフが退院後の経過を知らないことは問題ではないかと話し合う中で悩みました。しかし、このようなワークショップや各種勉強会に参加し、開業助産師、地域との連携を持つことで施設支援者も学ぶ機会となり、サポートにつなげられるのではないかと、このワークショップはとても有意義だったとグループで共有できたと思います。

来年は坂総合病院でワークショップの開催を考えています。まだまだ母乳育児支援が行き届いていない地域で、私たち支援者も日々悩みながら母子のサポートに携わっています。母乳育児を継続していくためには私たち施設の支援だけでは限界を感じることもあり、そこには母子を支える地域の支援も不可欠だと感じます。来年は施設支援者だけでなく、行政の支援者も交えて母乳育児支援について情報共有し、密に連携できるよう企画していきたいと考えています。皆様どうぞご参加ください。

■各グループ発表内容

育児支援は心の支援

みやぎ母乳育児をすすめる会
東北公済病院(赤ちゃんにやさしい病院)
産科医 上原 茂樹

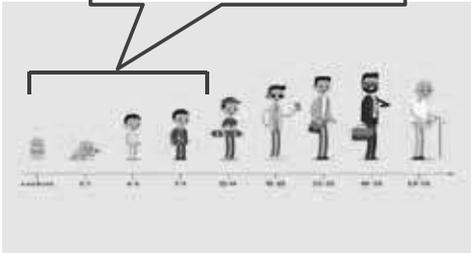
ヒトの発育・発達期間は長い




約15年

母子の情緒的絆による適切な養育が必要
ボンディング

育児とは
乳幼児を育てること
岩波国語辞典



育 しんどいけれど楽しく
乳幼児を育てること

健やかな成長ができるように

大人になってからも健全に生活できるように

ヒトが健全に成長するためにはー

児の脳の発育・特に前頭前野の正常な発達
が人たる基礎を決定する

お母さんと赤ちゃんの愛情のキャッチボールが
前頭前野の発達に重要

前脳前野(前頭連合野)



ヒトを入たらしめ、思考や創造性を担う脳の最高中枢
問題解決能力: 実生活でよりよく生きる
自己制御能力: 自己理解・自己伝達

母乳育児によってー

ボンディング(情緒的絆)形成・愛情のキャッチボールに
より前頭前野の発達が促進される

↓

母乳育児は健全な発育・成長のための
1つの大きなツールになる

……とは言っても、
お母さんは不安・心配やストレスを感じる



養育が不適切になる要因と不良転帰の可能性

シングルマザー
望まない妊娠
ステップファミリー
経済的困窮
家庭内暴力
被虐待歴
育児支援者がいない
精神疾患の既往・治療
未受診妊婦(飛び込み分娩)
若年妊娠
高年齢初産
妊娠中の長期入院
不妊症治療後の妊娠

育児ストレスの上昇

養育機能の低下

↓

産後うつ
自死・心中

乳幼児虐待(死)

子どもの成長・発達障害

栄養方法とスクリーニング検査高得点の関係 (初産婦さんにおいて)

初産(158名)	2週健診	1ヶ月健診
産後うつ病質問票	28 (18.3%)	8 (5.2%)
赤ちゃんへの気持ち質問票	20 (13.1%)	9 (5.7%)

産後うつ病質問票	母乳継続	混合→母乳	母乳→混合	混合継続
高得点改善 (20名)	8	4	1	7
高得点継続 (8名)	4	1	1	2
新規高得点 (0名)				

赤ちゃんへの気持ち質問票	母乳継続	混合→母乳	母乳→混合	混合継続
高得点改善 (11名)	7	1	1	2
高得点継続 (8名)	4	0	0	4
新規高得点 (1名)	1	0	0	0

母乳育児と言えるのは完全母乳だけなの？

WHO・UNICEF 10 steps No.6
 医学的に適応のないかぎり、母乳育児の新生児には母乳以外の食物や・水分を与えてはいけない

「完全母乳」は最善だが なぜ混合ではいけないの？

母乳育児のメリット

- 栄養学的に優れている
- ボンディングが促進される
- 赤ちゃんが感染症に罹りにくくなる
- 大人になってから生活習慣病(肥満・高血圧・糖尿病)になりにくい
- 知能指数・認知能力の発達がよくなる可能性がある
- 歯列がよくなり、噛み合わせ問題などが少なくなる
- 腸内細菌叢が維持される
- 子宮復古が促進される
- 体重が減少する(産後肥満が防げる)
- 排卵の再開が遅れ、避妊ができる
- 閉経前乳がん・卵巣がん・子宮体癌のリスクが減少する
- 骨粗しょう症のリスクが減る
- 災害時など、ライフラインが途絶えても手軽に授乳できる
- お金がかからない

「完全母乳」は最善だが なぜ混合ではいけないの？

母乳育児のメリット

- 栄養学的に優れている
- ボンディングが促進される
- 赤ちゃんが感染症に罹りにくくなる
- 大人になってから生活習慣病(知能指数・認知能力の発達)
- 歯列がよくなり、噛み合わせ問題などが少なくなる
- 腸内細菌叢が維持される
- 子宮復古が促進される
- 体重が減少する(産後肥満が防げる)
- 排卵の再開が遅れ、避妊ができる
- 閉経前乳がん・卵巣がん・子宮体癌のリスクが減少する
- 骨粗しょう症のリスクが減る
- 災害時など、ライフラインが途絶えても手軽に授乳できる
- お金がかからない

このうち、完全母乳でないとは無効なものはないの？

混合栄養の場合

赤ちゃんの成長・発達には変わらない
(肥満になりやすいという文献はある)

赤ちゃんのアレルギー疾患のリスクには影響しない

育児不安や産後うつの発症が増加する



人は千差万別である

受	物事の受け止め方	個々人でまったく異なる お母さんたちは千差万別
想	思考の仕方	
行	行動の仕方	
識	知識	

お母さんも支援者も それぞれで考えや行動は異なる

母乳育児がスムーズにできないお母さん

- タイプA こちらからの支援を熱心に受け止め頑張る
- タイプB こちらからの支援を聞き流して補足・人工乳を希望する

母乳育児支援者

- タイプ1 とにかく母乳育児ができるように支援を頑張る
- タイプ2 できないお母さんは補足や人工乳でもよいと考える

母乳育児に影響する要因

お母さんについて
年齢・生い立ち・モチベーション・体力・知識・乳頭形態(扁平・陥没)
睡眠不足や疲労の受容力・産後うつなどのメンタル異常
家庭環境・職場復帰・経済状況・夫や母親などの育児支援者

赤ちゃんについて
NICU入室(母子分離=早産・低出生体重・ハンディキャップなど)

産科的医療介入
帝王切開分娩・器械分娩・会陰切開



母乳育児支援 2つの支援要素がある

- マニュアルによる支援(ハードサポート)
クリティカルパス 手順書 ガイドライン
スタンダードケア 実施基準 ハウツー



- マニュアルに載っていない支援(ソフトサポート)
お母さんの心身状態や赤ちゃんの身体状態
を評価して臨機応変に行う支援



入院中のハードサポート

0	分娩当日	早期母子接触・母子同室・授乳指導
1		授乳指導・自律頻回授乳・授乳表記入開始
2	泣きの2日目	見守り・授乳指導
3	母乳分泌本格化	見守り・乳房マッサージ・医師によるおっぱい診察
4	退院診察	お母さんによっては再度乳房マッサージ
5	退院	乳房マッサージ

母乳育児支援とは

すべてのお母さんが、完全母乳育児を確立して
継続できるように、妊娠中→出産→産後の経過
を通して、叱咤激励してお母さんを泣かせても
徹底的にケアやサポートをすること

これって本当
の支援なの？

母乳育児支援とは

お母さんが苦しくなったり、
涙が続くような支援はよい支援ではない
お母さんがドロップアウトしてしまう

これって本当
の支援なの？

母乳育児支援 2つの支援要素がある

- マニュアルによる支援(ハードサポート)
クリティカルパス 手順書 ガイドライン
スタンダードケア 実施基準 ハウツー



逸脱(バリエーション)するお母さんが必ず存在する

- マニュアルに載っていない支援(ソフトサポート)
お母さんの心身状態や赤ちゃんの身体状態
を評価して臨機応変に行う支援



逸脱(バリエーション)したお母さんに対する支援

ハードサポートだけでは不十分
=マニュアルは必要だが十分ではない

ソフトサポートがマニュアルを補完する



混乱・迷い・疑いのお母さんには ソフトサポート

妊娠中・分娩入院中・退院後の支援の一貫性・継続が大切
・母親教室・妊婦健診時の保健指導での語り
・入院中の授乳指導・支援での語り
・産後のフォローでの語り(1ヶ月健診で終わらない)

評価

お母さんたちの境遇(育児困難要因)
心理状態・理解度・実行度

ママさんたちへ

目標は、「まアまアの母親」

子育てに「正解」はない
「まア、いいか」でリラックス



■テーマ2

テーマ2
乳頭が大きくて赤ちゃんが
飲めません

仙台医療センター 金成久美子
 大崎市民病院 菊地桃子
 東北公済病院 橋沼芽依
 坂総合病院 近江鏡子

乳頭が大きいお母さんへの支援

- ▶妊娠中の支援
- ▶入院中の支援
- ▶モチベーション維持のための支援
- ▶支援者の課題

妊娠中の支援

- ▶妊娠中に乳頭・乳房の形を確認させてもらう
→乳頭が大きい場合は...
産後児がうまく吸綴できない可能性があることを予め伝える
- +妊娠中からの乳頭マッサージを行ってもらおう。
乳頭が大きくても柔らかく伸展性が良ければ児も吸綴しやすい!と目的も伝える

入院中の支援①

- ▶時間毎の乳頭マッサージ・搾乳の実施・説明
(分泌↑+伸展良くするため)
- ▶直乳練習
母の疲労度と児の哺乳意欲に合わせて無理のない範囲で

入院中の支援②

- ▶分泌が増えてきたら搾母乳を児に与える
- ▶不足分はミルク等で補う
→与える方法(カップ?スプーン?哺乳瓶?)
母に情報提供をし、選択してもらおう
哺乳瓶に切り替えるタイミング
補足量が増えてきたら?日数が経過している?
母の手技はどこまで出来ている?
乳頭混乱のリスクは高い?退院後も必要そう?
▶適切な乳首の選択

モチベーション維持のための支援

- ▶今後の見通しや他の人の成功体験について話す
ex.児が大きくなって口も大きくなって来れば吸えるかも... (※断定はしない)
- ▶乳頭の形も赤ちゃんも人それぞれ 周囲と比べないように・・・
- ▶分泌が増えてきたら一緒に喜ぶ
- ▶搾乳も立派な母乳育児であることを伝える
- ▶家族に対しても母親を支えるために温かく見守ってほしいことを伝える

まとめ

- ▶妊娠中から支援していく
- ▶その人が継続出来る方法を提示していく
- ▶直乳できるまで母乳分泌を維持出来るようにする
- ▶モチベーションも維持出来るようはたらきかける

支援者の悩み・課題

- ▶産後1ヶ月以降の経過・行く末を知らない...

だからこそ...

- ▶勉強会やワークショップに参加して他施設と情報を共有したり、最新の情報をアップデートする
- ▶地域と連携していく

総合討論より

- ▶施設のスタッフは行く末を知らないのではないか?
⇒各種勉強会や新生児訪問などで、顔が見える関係の間柄であれば連携はしているが、もっと他の開業助産師とも連携が取れたらよい。直接授乳が可能になるのはケースバイケース
- ▶根気よく続けることが大事。どうなるか分からないけど、という支援のスタンスではない方が良いだろう。
- ▶2ヶ月くらい経つと顎の発達が良くなるので吸えるようになってくるので頑張ろう
- ▶搾乳～授乳終了まで1時間で終わるような授乳プランの提案、吸力に合わせた乳首(弱い子は吸いやすく、強い子はなかなか飲めないような乳首)を選択することが必要かも。分泌が良ほうか吸えるようになる症例が多い印象あり

■テーマ3

テーマ3

4日目になり、まだおっぱいが出ませんが ミルク足したくありません

熊谷 美幸、沼津 亜紀
須原 涼子、東 彩乃、小原 幸恵

事例

- ・初産婦 1妊0産 35歳
妊娠中から母親学級を夫と一緒に受講
実母もともに受講する時もあった
パースプランに「できるなら母乳で育てたい」との記載があった
- ・傾向:実母の意見にあまり逆らえない?
夫は話をよく聞いてくれる 面会時は積極的に児に関わっている

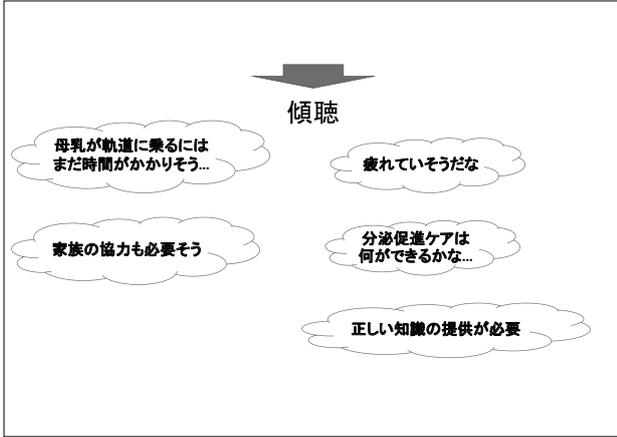
事例

妊娠経過 特に異常なし

- ・分娩経過 妊娠39週0日自然分娩
分娩所要時間:14時間 出血量:普通
- ・乳房形態 IIa 乳頭突出
- ・出生体重 3200g AGA男児 Ap9/9
- ・日齢4 児寝がち、体重減少率-9.8%、
排泄回数少なく肛門刺激にて胎便あり
- ・分娩当日から母児同室 個室希望

なぜミルクを足したくないのか？

- ・児が起きないため、満足していると思っていた。
- ・ミルクを足すことにより、今後もミルクになってしまう不安。
- ・赤ちゃんが産まれるとおっぱいは必ず出るものだと思っていた。
- ・実母にミルクは必要ないと言われた。
- ・周りの人がおっぱいで育てている人が多い。
- ・おっぱいが出ないことに対して申し訳なさがある。
- ・母親学級などでミルクよりも母乳が良いと言っていた。
- ・出来るだけお金をかけたくない。



私たちにできる支援

- ・頑張りを労う
- ・母親の不安に沿って、必要性を伝えていく
例:頻回に吸ってもらうことで分泌が促される(吸わない時には刺激が必要である)ことの再確認をする
- ・分泌を促すケア
身体を温める、水分摂取、肩甲骨・肩回りのストレッチ、
- ・家族を巻き込んだ介入
例:退院後も母乳育児を継続していくために、家族へ向けたパンフレットを渡す

私たちにできる支援

- ・分泌には個人差があり、出てるタイミングもそれぞれ。
- ・ミルクは一時的な補足。
→児の体重増加に伴い、母の安心と分泌増加につながる。
- ・産後2週間健診までの授乳方針を検討
2週間健診前にフォローが必要か?
授乳回数、分泌状況、直母量、搾乳の必要性、補足量と回数など

総合討論より

- ・人工乳補足になったときの声掛け
- ・頑張りを労う。児の健康のために、しっかり補足することの必要性を話す。退院後のフォローは細く長く大きくつながることが必要。実母が経験した栄養方法や考えを汲んで対応が必要。調乳方法が変わったこと等、最近の情報を正確に伝える必要がある。

■テーマ5

テーマ5
**(母乳のみで順調な経過ですが)私は、
 退院後はミルクも飲ませたいです。**

チューター: 東 静子(東北公済病院)
 佐藤祥子(大崎市民病院)
 加藤美江子(かとう母乳育児相談室)
 山本優子(仙台市立病院)

ノーマークの褥婦、さっきまで母乳を順当にあげていたのに突然「ミルク」と…背景に何かある

- 退院後は上の子で忙しいから
- 母乳が足りない気がしているから
- 夜は寝たいから
- 家族に赤ちゃんの世話をしたいから
- 預けた先で哺乳瓶に慣れないと困るから
- 夫が授乳したいと言っているから
- 保育園に入れたいから

不安

(入院中から混合にしたい)
 ・泣くので、寝ないので、寝たいので、低血糖が心配です、おしっこが少ないです、乳首が痛いです

入院中は母乳だけど、退院後は混合にするんで

- 支援者としての立場と、お母さんが日常生活のなかで母乳育児を継続できるようにするシレンマ
- ある程度確立した後にミルクを足すのは良いだろうけど
- 母乳育児も継続できるよう確かな知識を持っていれば良いけど
- 頻回授乳が重要な時期に混合希望だからと補足を希望する母、補足する支援者
- 母親1, 2 支援者1, 2はグラデーションで存在する
- 「と、思っていたけど母乳でやってみようかな」と思うようになって欲しいな
- どんな支援者に出会うかで行き先が変わるのは…

支援者の育成

- なかなか勉強会に当てる時間が難しい
- 病院から言われて研修に行くという感じ?
- マニュアルに出来ない部分での魅力的な「語らい」
- 密室のケアになりがち
- こうやって話しかけるんだなって経験が積めると良い

希望に沿うことって本当の優しさ?!
 同世代だから分かり合えて補足する?!

- 大変な「泣きの2日目」をどう支えるか
- お母さんも分かっている
- お母さんの気持ちを汲みながら…難しいスタッフいるよね
- マニュアル無いところが難しい…後輩の育成
- 具体的な声掛けや預かり中の補足間隔とか教える必要あり
- プロとして母の希望に応えるだけではなく、見通しも伝える

母乳育児支援とは、「心が動くような」「人と人とのつながり」

- 妊娠中から
- 目に見えない「何か」をお母さんに渡す…
- お母さんがそれを子供に渡す、子供が自分の子供に渡す…健全な生活につながる
- 未来への投資、分かっているけど今が辛い
- 先々を見て親は子供に嫌なことでも言うよね(愛だから)
- 飲ませて寝ないけど無駄なことではない
- 赤ちゃんにとっては大事なこと
- 「サーブをリターンする」* 10STEPSの8「応答授乳」を思いながら

お産のときの過ごし方も大事

- 食べる・寝る・動く・休む
- いたい、いたい! ⇒+あ 「あいたい、あいたい」
- 育児には産後の回復も大事
- 栄養が良くない…「新型栄養不足」
- 貧困(ちゃんと生活しているかな?)
- 支援者がやっぱりいない
- 何をどう手伝ってもらえばよいのか分からない…授乳だけが赤ちゃんのお世話ではない…「菌磨きの間見て欲しい」
- 手伝って欲しいといいにくい、抱え込んだら
- 「授乳力」:他者に助けを求め快くサポートを受けとめる力

雑感

- 携帯電話の存在が変わってきている
- デジタルネイティブの親が増加している
- 他の情報が入ってこない(辞書で検索…ひろがり)
- 欲しい情報しか入ってこない
- 芸能人 母乳が出ているとSNSで叩かれる。「母乳のこだわりを捨てたら楽になった」ブログ繁盛
- 子育ては「無駄なこと」が多いのかもね
- 10年後の子も達はどうなっているのかな

おねえさまたちは、こう思う

- 否定はしないけど、気持ちが変わることもあるからこれまでも、これからも、今までどおり丁寧な支援は続けて行きたい
- 無償の愛は続けていきたい
- 足すのはいつでも出来る、
- おっぱいが出ないと、まず「混合」にもならないから(笑)
- まずは頻回授乳を支援しましょう

総合討論より

- 『語らい』を学ぶ機会について・現状は？

⇒ 困った症例について相談することはあるが、いわゆる「語らい」とされる日常の声掛けを学ぶ機会は少ない。機会があったら学びたい。

⇒ 困ったことがあるときは相談している。聞き耳をたてて学んでいる。

⇒ 授乳サロンで先輩たちの声掛けを聞いて学んでいる。困った症例はサロンではなくお部屋で支援していることが多いので、学ぶ側としても密室になりやすいのは課題が。

⇒ 悩んだときは「おっぱいカンファ」にてチームで方針を決めている。不安な時は一緒に褥婦さんのもとに行ってくれる環境にいる。

⇒ 先輩に相談した症例が、先輩の前では肩に手を置いただけで辛かったことを感情表出し流涙したことがあり、先輩の声掛けや仕草が勉強になったことがあった。

第7回 みやぎ版母乳育児ワークショップ 全体討論報告

テーマ5G「(母乳のみで順調な経過ですが) 私は、退院後はミルクも飲ませたいです。」

● 語らいを学ぶ機会について

- ・困った症例について相談することはあるが、いわゆる「語らい」とされる日常の声掛けを学ぶ機会は少ない。機会があったら学びたい。
- ・困ったことがあるときは相談している。聞き耳をたてて学んでいる。
- ・授乳室で先輩たちの声掛けを聞いて学んでいる。困った症例は授乳室ではなく、お部屋で支援していることが多いので、学ぶ側としても密室になりやすいのは課題か。
- ・悩んだときは「おっぱいカンファ」にてチームで方針を決めている。不安な時は先輩と一緒に褥婦さんのもとに行ってくれる環境にいる。
- ・先輩に相談した症例が、先輩の前では肩に手を置いただけで辛かったことを感情表出し、涙を流したことがあり、先輩の声掛けや仕草が勉強になったことがあった。

テーマ2G「乳頭が大きくて赤ちゃんが飲めません」

● 施設のスタッフは退院後の経過を知らないのではないかと(開業助産師加藤さんからのコメント)

- ・各種勉強会や新生児訪問などで顔が見える関係で連携はしているがもっと他の開業助産師とも連携が取ればよい。直接授乳が可能になるのはケースバイケース。
- ・根気よく続けることが大事。どうなるか分からないけど、という支援のスタンスではない方が良いだろう。2ヶ月くらい経つと顎の発達が良くなり吸えるようになってくるので頑張ろう
- ・搾乳～授乳終了まで1時間で終わるような授乳プランの提案、吸啜力に合わせた乳首(弱い子は吸いやすく、強い子はなかなか飲めないような乳首)を選択することが必要な場合もある。分泌が良いほうが吸えるようになる症例が多い印象がある。

テーマ3G「4日目になり、まだおっぱいが出ませんが、ミルクは足したくありません」

● 人工乳補足になったときの声掛け

- ・頑張りを労う。児の健康のために、しっかり補足することの必要性を話す。退院後のフォローは細く長く太くつなげていく。実母が経験した栄養方法や考えを汲んで対応する。調乳方法が変わったこと等、最近の情報を正確に伝える。

上原先生より講評

支援者も様々なので、グループ討論により統一見解が持てたことが大切。施設でも統一見解がないと、お母さんがバラバラの支援を受けて混乱してしまう。

足りていない時には必要な分は足し、足りている時には足さない様に、お母さんの気持ちにも沿った個別的な支援が出来るように頑張っていきましょう。

第7回 みやぎ版母乳育児ワークショップ アンケート結果

回収11枚（参加者10名、係5名）

1. 会場の環境（広さや配置）はいかがでしたか？

①良い 11 ②どちらともいえない 0 ③良くない 0

【理由】

- ・他のグループが（声とか）気にならない距離で良かった（3名）
- ・リラックスして過ごせた。
- ・話し合いに集中できた

2. 時間配分はいかがでしたか？

①良い 8 ②どちらともいえない 2 ③良くない 1

【理由】

- ・グループワークの時間がもう少し短くても良かったと思う。
- ・進行具合を見て臨機応変に対応して下さったので良かった。
- ・ちょっと短く感じた。
- ・ギリギリだったが良かったと思う。
- ・話し合いは十分に出来た。
- ・余裕を持ってグループワークできました。
- ・午後のまとめが早めに終わった。おそらくグループの特性のためと思われる。

3. 基調講演は役に立ちましたか？

①役に立つ 11 ②どちらともいえない 0 ③役に立たない 0

【理由】

- ・“いまどきのおかあさん”にとって、ソフトサポートは重要だと思いますし、支援していても痛感します。
- ・知識の再確認が出来た。
- ・産科でのお母さんとの関わり方の大切さを学ぶことが出来ました。
- ・母乳って本当にスバラシイと思った。
- ・肩の力を抜いて、将来的に「あの時母乳頑張ってたなあ」と思える支援をすることも大切なのではないかと改めて感じた。
- ・「語らい」の大切さにハッとしました。
- ・上原先生の講演は何度も聴かせて頂いていますが、今回特にハッとさせられたのは、「完全母乳」は最善だが、なぜ混合ではいけないの？「このうち完全母乳でないが無効なもの？」でした。又、「お母さんも支援者もそれぞれで考えや行動は異なる」を聞いた時に、私自身の事を考えても年齢を重ね、経験を積むことで「こうでなければならない」から少しずつ丸くなり変化してきていると、先生のお話を聴きながら思いました。上原先生ありがとうございます。

4. グループワークに関して

1) ご自分の悩みや、困った経験を発言できましたか

- ①十分できた 6 ②できた 4 ③まあまあできた 1
 ④あまり出来なかった 0 ⑤出来なかった 0

【理由】

- ・世間話をするような感覚で色々お話しすることが出来ました。
- ・“ミルクを足してもいい”という風潮が広がり、母乳育児が保護されなくなるのではないかと危惧したが、これまで通りの支援を続けていくんだという同じグループの方の発言にとっても納得、安心できた。お母さん達にもこれで良いんだと安心してもらえるように支援したい。
- ・自分達が日常経験しているようなことを話し合い、共有することが出来た。
- ・日頃の悩み等を聞いてもらえて、とっても有意義でした。

2) これからの支援につながる何かは得られましたか

- ①得られた 11 ②どちらともいえない 0 ③得られない 0

【理由】

- ・どの施設もほぼ同じ支援方法と分かり自信につながった。
- ・他施設の情報も聞けたり、先輩方の話もとても参考になった。
- ・講演も勉強になった。他の病院ではどのような取り組みをしているのかなどを知ることができて良かった。
- ・母乳育児のすすめ方、何が何でも母乳ではなくて良いこと。
- ・スタッフも患者さんも気持ちを探りあいながら、折り合いを付けて育児が出来たらと思う。
- ・お母さんの気持ちや理由をよく聴いて受容すること。しかし、ミルクを足しながらでも母乳育児を続けられるような支援は必要だという結論になった。
- ・今後の支援において、母乳育児支援をしても最終的にミルクになることもありますが、育児の支援として無駄なことは無いのだなと思うことが出来た。
- ・色々な施設の助産師と話ができて、良かったです。

5. 母乳育児支援を行う上で、お困りのことはどんなことですか？

- ・スタッフ同士の考え、モチベーションの違い（考え方が違うのは仕方ないですが・・・）。
- ・スタッフの支援の温度差、知識や技術の差。
- ・このようにと指導しても、指導どおりにせず体重を減らして来院した時。
- ・支援者の高齢化。
- ・母乳育児支援を今後どう後輩に伝えていくかが今後の課題。

<番外>上原先生のおすすめのお弁当、とてもおいしかったです。

のびすく便り

みやぎ母乳育児をすすめる会 副理事長 佐藤 祥子 (大崎市民病院)

新型コロナウイルス感染症は、いつ収束を迎えることができるのでしょうか。

新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言により、学校は突然、全国一斉に臨時休校となり、卒業式、終業式、お子さんにとっても親御さんにとっても心に残るはずのイベントが中止されました。楽しいはずのゴールデンウィークは「ステイ・ホーム」。5月の連休が明けたら入学式と心待ちにしていたお子さんも、5月4日夕方に臨時休校が5月31日まで延長することが決定し、また我慢の1ヶ月となります。仕事をしているお母さんにとってお子さんと一緒に過ごす時間が増えることは嬉しいことでもあります。一日中、家の中で過ごす時間が長くなると、お互いにストレスが溜まったり、普段とは違う生活に戸惑うことが増えるかもしれません。個人でできる感染対策として、こまめに手洗いやうがいをし、3つの密を避け、適切に食べ、眠り、運動を続けていきましょう。一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、日常生活が戻ってくる事を願っています。

のびすく全館も感染拡大防止のため、3月1日から5月31日まで臨時休館しています。一時預かりについても新規の受け入れはしていません。6月の予定も未定です。詳しくはホームページを確認してください。休館期間中の子育て相談等については通常の開館日・開館時間内に電話相談を受け入れています。産後であっても移動自粛のために里帰りできなくなったり、手伝う予定の方が来られなくなったりと、退院後の支援を受けにくい方が増えています。退院時、育児に関して相談できるところがあるよと、お母さま方にお伝えしていただくと少しは気持ちが軽くなるのではと思っています。情報提供していただくと幸いです。

さて、今回は上のお子さんへの配慮について、です。

多くの産院で新型コロナウイルス感染防止のため面会制限がされています。出産の入院により突然お母さんがいなくなって、上のお子さんが寂しさや不安を感じることも多いことでしょう。「お兄ちゃん、お姉ちゃんになったんだから」と更なる我慢を要求されても、気持ちが収まるわけではありません。自宅に帰ったら、一番に上のお子さんを抱きしめて、「会いたかった、お母さんも寂しかったよ」と伝えてあげてください。

退院後はどうしても生まれた赤ちゃん中心の生活になりがちですが、上のお子さんが「赤ちゃんに主役の座を奪われた」と感じることはないように、一緒にお母さんと同じことができる喜びや、赤ちゃんのことをすることで自分を褒めて欲しい気持ち、自分がお母さんの役に立てた達成感を満たせるようにお手伝いをしてもらうのはいかがでしょうか。「待ってね」ばかりではなく、拙くても手伝ってくれたらその気持ちに「ありがとう」と感謝を伝えたり、上のお子さんだけとのゆったりした時間をとるなどして、自分も大切にされていると安心し、家族が増えたことを受け入れられるように周囲が協力していきましょう。

上のお子さんが赤ちゃんがえりをしておっぱいを飲みたそうな様子でしたら、飲ませても良いこと

を伝えましょう。お母さんに甘えたい気持ちを受け入れてもらえると、安心して離れていくことが多いです。上の子に先に吸わせて、吸ってない方を赤ちゃんに吸わせる、もしくは上の子に先に吸わせ、満足してもらってから赤ちゃんに与えたり、同時に飲ませたりするのも良いでしょう。赤ちゃんの分がなくなるまで飲み尽くし続けることはめったにありませんが、念の為、赤ちゃんの尿や便の量や回数などから、赤ちゃんが必要量を飲んでいることを確認しましょう。

のびすく泉中央（ ）内は担当者

開催日	相談組数	内 訳	月 齢	相談内容（左記の子どもの月齢等とは対比していません）
2019年10月 （佐藤）	5組	男児2名 女児3名	4ヶ月 2ヶ月 8ヶ月 5ヶ月 5ヶ月	混合から母乳にしたい 左右のおっぱいの大きさが違う 卒乳のしかた 卒乳のしかた 離乳食の進め方
2019年11月 （石森）	4組	男児2名 女児3名 （双胎1組含む）	5か月 6か月 7か月 9か月	離乳食の進め方 母乳とミルクのバランスについて
2019年12月 （石森）	5組	男児2名 女児3名	1か月 3か月 10か月 11か月 1歳3か月	離乳食の進め方 手づかみ食べについて 母乳とミルクのバランスについて 夜間の授乳、卒乳について 体重増加について*
2020年1月 （山本）	2組	男児1名 女児1名	5か月 1歳	離乳食の始め方 夜間の授乳をやめたい、大きな音に敏感
2020年2月 （石森）	5組	男児1名 女児4名	3か月 6か月 7か月 8か月 1歳0か月	離乳食の進め方 夜間の授乳、卒乳について 外出時の授乳方法について* 便秘について 不妊治療と授乳について*

*12月の体重増加について、2月の外出時の授乳方法、不妊治療と授乳については、相談内容が個別に対応した方がよいと思われる内容だったため、グループ相談終了後に個別対応した。

のびすく仙台（ ）内は担当者

開催日	相談組数	内 訳	月 齢	相談内容（左記の子どもの月齢等とは対比していません）
2019年10月 （山本）	2組	男児1名 女児1名	3ヶ月 3ヶ月	混合栄養なので、今後母乳が出なくなる不安がある* 授乳時落ち着きがない、尿量が少なくなった
2019年11月 （小林）	2組	男児2名	6か月 7か月	不妊治療開始のため断乳方法について 離乳食を食べない、こぼす
2019年12月 （加藤）	なし			
2020年1月 （近江）	2組		5ヵ月 10か月	離乳食について 職場復帰時の断乳、夜間授乳継続に対しての体力への不安
2020年2月 （熊谷・本間）	3組	男児2名 女児1名	6ヶ月 8ヶ月 3ヶ月	授乳時落ち着きがない 職場復帰、保育所入所に伴う授乳と乳房管理 混合から母乳にしたい 授乳のあり方について

* 体重増加不良にて小児科から人工乳を補足するよう説明されているが、消極的なので補足するよう促してほしいと「のびすく」から要望あり。

NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会

2019年度 第4・5回理事会報告 (敬称略)

第4回理事会

日 時：2020年2月3日(月) 18：30～

場 所：東北公済病院 II号館 7階中会議室

司 会：洞口

記 録：佐藤(梅)

出 席：理事長：上原 副理事長：青葉、佐藤(祥)

理 事：飯田、伊藤(美)、大槻、大友、小原、加藤、熊谷、菊地、中村、洞口、安井、山本

監 事：堺 事務局：佐藤(梅)、幹事・近江、横江、渡邊

1. 2020年母乳フォーラム in みやぎについて (担当：熊谷)

1) 講師・テーマについて ①上原理事長退任記念講演会 (決定)

②母乳シンポジウムの発表

連絡担当者：事務局

2) 日程 →第一候補 10月17日(土)、第二候補 10月10日(土)、第三候補 10月24日(土)

3) 会場 →仙台市医師会館 (4月に上原理事長へ申込みを依頼する)

2. ワークショップについて (担当：佐藤(梅))

1) 申し込み状況報告 11名 3～4名×3グループにする

2) チューター確認 (公済：東) (スズキ：小原) (坂：近江)

3) スケジュール確認

開催日時：2020年2月16日(日) 10：00～16：30

開催場所：東北公済病院 II号館 8階大会議室

開催報告 (ニュース原稿) 担当：坂・佐藤

パソコン準備など：佐藤(梅)

その他：2月10日まで申し込み締め切り延長。

3. のびすく報告 (担当：佐藤(祥))

・山本：のびすく仙台2名 10月9日

3か月女児 予防接種後きよろきよろして飲まない 尿量が少ない

授乳は20分1往復と決めている

→1回の授乳時間を決めずにのんびり授乳してみましよう提案

3か月男児 1か月健診で体重増加不良、小児科医から人工乳補足を提案されたが消極的。母は母乳が出なくなることを懸念して、人工乳の補足を減らしていた。現在は「ミルク

を足すことに抵抗感はなくなって」授乳回数8回から5回へ減少。細くでも長く授乳を継続すると母子相互への恩恵が増えることを伝えた。

のびすく泉中央2名 1月8日

5か月女児 離乳食の始め方

1歳10ヵ月男児 夜間の授乳を止めたい 大きな音に敏感に反応

泉中央はグループ相談だが、児の月齢が離れていたため個別相談のようになった。

※相談内容について：育児相談発達などが主になっているので、このままで良いのかな？

※(堺)今年の母乳哺育学会で子どもの発達の講義をする予定。

貧血、VD不足が今問題になっている。

・近江：のびすく仙台2名 1月8日

5か月：離乳食について

10か月：仕事開始に向けて断乳の相談、夜間授乳継続に対しての体力への不安。

※保育園で冷凍母乳を受けてくれないことがまだ多い。会として行政に意見を出しても良いのでは無いか。アンケートが必要かも。→プロジェクトとしてやっていく

・加藤：のびすく仙台 12月11日 相談者なし

・石森：のびすく泉中央 11月6日、12月4日、2月5日→次回報告

・佐藤：のびすく泉中央 10月分→次回報告

・小林：のびすく仙台11月分→次回報告

* 2月の仙台は12→19日になる。担当（公済 熊谷・本間）

4. ホームページについて（担当：Webチーム 青葉・大友・山本・熊谷）

1) コンテンツ原稿の進捗状況（別紙参照）

原稿集まったので、校正し、お母さん向け／医療者向けで整理するなどして、でき次第載せていく予定

テーマに高齢出産のお母さんへのアドバイスも入れてはどうか。昨年の母乳率が下がったのにも出産年齢の上昇も関係しているのでは？

→高齢出産の方が抱えがちな問題には様々なものがある。しかし「高齢」に限ったことではないかもしれない。問題を整理してみる。

2) 今後の課題など

・母乳率が下がったことへの対策が必要か

・WEBを見てほしいため、「高齢出産」など特化したテーマを入れていく方針はどうか。

→今後検討

・育児の方法の時代の変化、保育環境の変化に対応することが課題か

女性の就業率や保育所利用社数の増加などが著明に増加している。時代の趨勢を読み、完全母乳を推し進めるだけではない考え方が必要か。

5. 母乳育児シンポジウムの進捗状況について（担当：佐藤(祥)）

テーマ「今、もう一度母乳育児を考える 2020来てける山形」

特別講演 1. 荒木 慶彦さん 順天堂大学環境医学研究所 先任准教授（産婦人科学兼任）

生命の進化から見たヒト女性の生殖生理：その本質と倫理的限界を考える

2. 村上 龍男さん 鶴岡市立加茂水族館：名誉館長

「クラゲという神様に救われた小さな水族館の物語」

* 詳細と進行状況は添付文書参照

* 各県のBFH施設にアンケートあり、祥子さんにデータが集まる。

実行委員の方々、集計など協力お願いします。

6. その他

1) 会員を増やすことについて（担当：青葉・大友）

- ・ 個人医院には法人会員を設定し、募る方向で。
- ・ WEBページの充実で増やす。特化したテーマで出すのも良いのでは。たくさんの本が出ているので同じ内容のものを出してもしょうがない。
- ・ 現在アクセス400位/月あるが、内容は見ていない。欲しい情報ではないためか。
- ・ 初乳から卒乳を改定版にして作り、値段は780円ぐらいでは？
- ・ WEBの原稿を本にするのも良いか→webチームで本を作成する方向で検討していく。

2) 役割分担（担当：熊谷）（資料参照あり）

今後の課題として検討

メールでの連絡が届いているか不明なので、返信があると助かります。

施設のアドレスの方がいるが、個人のアドレスの方がメールを見やすい方は事務局に連絡を。

3) 定例会について（講師、テーマ、開催日時、場所について）（担当：洞口）

堺先生より「乳幼児の発達について」の講演

日程：6月4日(木) 18:30～、会場：公済病院8階大会議室

次回理事会は2020年4月6日(月)18:30～東北公済病院7階中会議室で開催予定です。

第5回理事会

2020年4月6日(月)

* コロナウイルス感染症拡大防止のため、理事・オブザーバーのメーリングリストにて意見交換。

① 6月4日(木) 定例会（チラシ、資料代、広報、当日進行、ニュース担当について）

→定例会は中止。

② のびすく報告と担当

→のびすく仙台・泉中央とも臨時閉館中にて、母乳育児相談も中止延長中。

③ ホームページの件

→ホームページ作業チーム（青葉、大友、山本、熊谷、宮城文化協会・板垣）で原稿やレイアウトについて作業中。試作ページができたなら理事・オブザーバーの方々に内容やレイアウトについて、パソコンとスマホで見てください。5月中には公開できるか。

④ ニュース5月号の件（内容・担当、締め切り）

- ・ 巻頭言 安井先生
- ・ ワークショップ報告 坂病院、事務局
- ・ のびすく報告 祥子さん
- ・ 理事会議事録 事務局
- ・ その他

* 締め切りはGW明け。山本さんへ入稿してください。

⑤ 母乳フォーラムの件（広報先、予算案など）

→開催について検討中。新型コロナウイルス感染症がまだ落ち着いていないため。総会については電磁的方法などを活用して行うことも検討中。

⑥ その他

- ・ 母乳育児シンポジウムの件

→来年に延期となった。

日 時：2021年8月28日(土)、29日(日)

会 場：山形市 ・山形テルサ

それに伴い、一般演題の締め切りは2021年3月31日に変更となった。

- ・ 理事会メンバー異動の有無

仙台市立病院 梅原あゆみ師長さんが異動、新任は保谷知子師長さん。

- ・ 新規会員募集、既存会員の会費納入のお願い

現在2019年度分として会費を納入されている方は105名ほどです。各施設などでも会費納入の呼びかけをお願いいたします。

- ・ 会員で異動された方などがあればお知らせください。

次回の理事会は 6月1日(月)18:30~20:00 東北公済病院II号館7階中会議室で開催する予定です。

お 知 ら せ

* さかいたけおの「母乳育児奮闘記」は今回お休みいたします。楽しみにされていた皆様、申し訳ありません。

* ニュース51号でお知らせいたしました、当会の2020年の年間予定が変更になっております。

・ のびすくでの母乳育児相談は、各のびすくの休館に伴い中止しています。休館中、のびすくでは電話相談を行っております。詳細は各のびすくのウェブサイトでご確認ください。

・ 6月に開催を予定していた定例会、理事会、10月開催予定でした母乳フォーラムは中止です。総会については会員の皆様には後日お知らせいたします。

・ 8月に山形市で開催予定でした日本母乳の会の母乳育児シンポジウムは、来年2021年8月28日、29日（山形市・山形テルサ）に開催が延期となりました。詳細については日本母乳の会のウェブサイトをご参照ください。

・ 授乳中のお薬の相談ですが、担当して下さっていた東北公済病院 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の湊敬子さんのご都合により、6月末で終了となります。
湊さん、今まで大変お世話になり、ありがとうございました。

* 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症拡大については、いまだ予断を許さない状態が続いています。

以下の団体ホームページもご参考頂き、最新の情報と共にこの困難を乗り越えていきましょう。

（各団体に掲載の許可を頂いています）

・ 公益社団法人 日本小児科学会 新型コロナウイルス感染症に関するQ & Aについて

http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=326（外部リンク）

・ 公益社団法人 日本新生児成育医学会 新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

http://jsnhd.or.jp/info/cdvid19_warning.html（外部リンク）

・ 新型コロナウイルス（COVID-19）と授乳について関連する情報

https://jalc-net.jp/covid19_jalc.html（外部リンク）

住所や勤務先、お名前の変わった方、退会を希望される方は事務局までお知らせ下さい。

連絡先 事務局：東北公済病院 7階 母子センター
TEL：022-227-2215（直通）
E-mail：m.bonyu@gmail.com

特定非営利活動法人 みやぎ母乳育児をすすめる会
理事長：上原 茂樹
事務局：東北公済病院7階 母子センター
電話：022-227-2215(直通) e-mail:m.bonyu@gmail.com